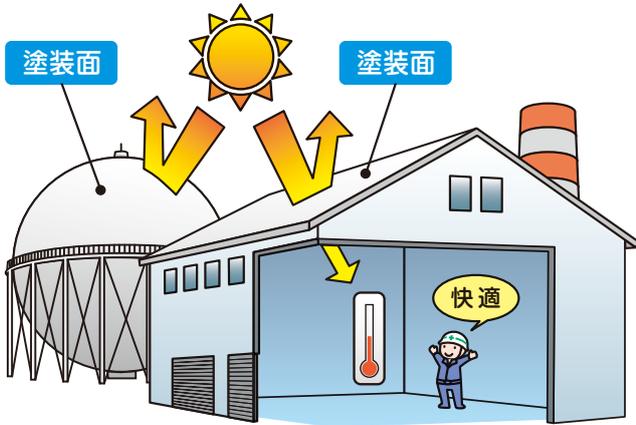
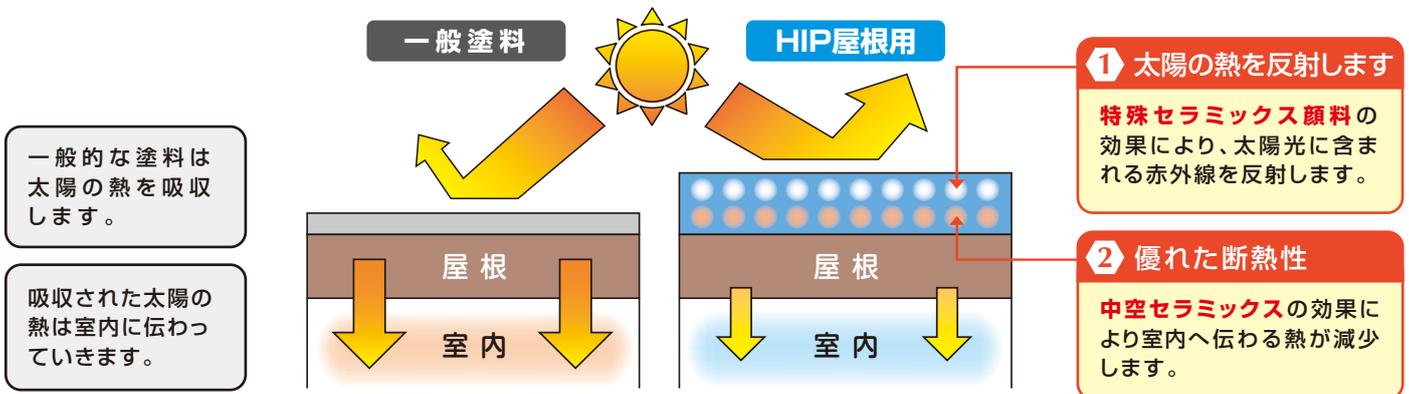


工場建屋や構造物の熱対策に 反射と断熱のダブル効果で太陽の熱を強力にカット



1 太陽の熱を強力に反射します
赤外線反射率80%以上
(※JIS K 5675準拠)

2 中空セラミックスの働きによる優れた断熱性



室内側で最大10.5℃の温度差

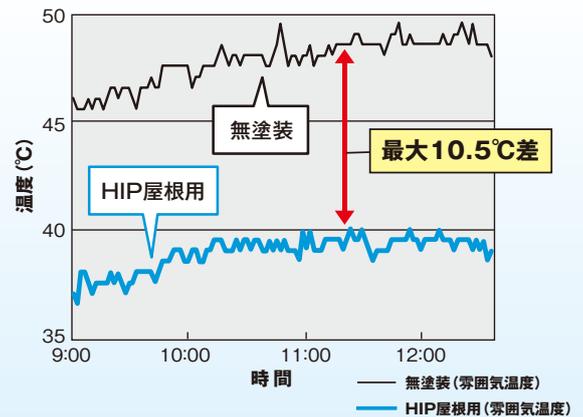
温度比較試験

塗装基材：折板屋根(ガルバリウム鋼板製)
試験内容：屋根面の一部にHIP屋根用(ヒュアホワイト)を塗装し、屋根材から50mm離れた室内空間の雰囲気温度を測定。無塗装面の同一部位と比較。



【表面温度比較 サーモグラフィで撮影】

室内温度比較



2012年7月18日(快晴)オキツモ製造工場屋根での実験

オキツモにできる環境貢献

省エネ・環境貢献塗料
ReEner リエナ



リエナは、「光と熱をコントロールして省エネ・創エネ」をコンセプトにした省エネ・環境貢献塗料です。オキツモは耐熱塗料・機能性塗料メーカーとして、塗料にできる環境ソリューションをご提案します。

断熱ペイント HIP 屋根用 カラーバリエーション (全7色)



※印刷物の為、実際の色味とは異なる場合がございます。

■ 金属系屋根材 (適応素材:ガルバリウム鋼板) 標準仕様

工程	商品名	調合 主剤:硬化剤 (wt%) [可使時間]	塗装方法	希釈剤	希釈率 (wt%)	塗布量 (g/m ² /回) ※1	膜厚 Dry (μm) ※1	塗装間隔 (20°C) ※2	
1	素地調整								
2	下塗塗装								
	活膜部	HIP屋根用 下塗 UR-100	80:20 [20°C 8時間]	刷毛、ローラー塗装 エアレス塗装	S-61	0~5	160 200	50	12時間以上 7日以内
	発錆部	HIP屋根用 錆部用 下塗 UR-110	85:15 [20°C 8時間]	刷毛、ローラー塗装 エアレス塗装	S-61	0~5	200 240	60	16時間以上 7日以内
	3	上塗塗装 (1回目)	HIP屋根用 MB-100系 ※3)	—	清水	0~10	120	70	1時間以上 7日以内
4	上塗塗装 (2回目)						160		
5	乾燥 ※2)								20°C 24時間以上

- ※1) 塗布量・膜厚は標準値です。
形状、希釈率、素地の状態、通風・湿度等の気象条件、測定機器、測定条件等により変動します。
- ※2) 塗装間隔、乾燥時間は、塗布量、通風・湿度・気温等の気象条件により異なります。
目立たないところを指の腹で押し塗膜に指の跡が付かない事を確認してから次の工程に進んでください。
5°C以下で乾燥した場合乾燥不良が生じる事があります。
乾燥不良の場合、塗膜のワレ、フクレ等の外観不良、ハガレ等の性能不良が起こる場合があります。
- ※3) HIP屋根用MB-100系の反射性能は色調により異なります。

商品名	主剤	硬化剤	荷姿	危険物表示
HIP屋根用 下塗 UR-100	溶剤系2液変性エポキシ樹脂		16kg セット	第4類第1石油類
HIP屋根用 錆部用 下塗 UR-110	溶剤系2液変性エポキシ樹脂			第4類第2石油類
HIP屋根用 MB-100系	水系アクリルシリコン樹脂		10kg	非危険物、火気厳禁

塗装に関する注意事項

【塗装環境】

- ・降雪、降雪、結露の恐れがある場合の施工は避けてください。
- ・気温5°C以下や湿度85%以上の時の施工は避けてください。
- ・強風時の施工は避けてください。
- ・塗装面が50°C以上になる場合(夏場の施工時などは)、塗料の乾燥性が速く作業性が悪くなる場合がありますので、専用の希釈剤で希釈し乾燥性の調整を行ってください。

【素地調整】

- ・塗り替えは以下の要領で行ってください。
旧塗膜が健全であり、以下を塗装してもリフティングしない事を確認の上、【HIP屋根用<塗替仕様>】に基づき施工してください。
- ・高圧水洗にて洗浄を行う際には十分な養生を行い、周囲への飛散防止を行ってください。
- ・シーリング面への塗装は汚染や粘着、塗膜のワレの原因となりますので避けてください。
- ・シーリング面付近は、密着不良を起こす恐れがありますので、入念に洗浄を行ってください。
- ・塗装面の洗浄後は、シューズカバーを着用して作業を行ってください。

【塗料調整】

- ・開缶後、顔料分が沈降していることがありますので、堅い塊がなく一様になるまで十分攪拌した後使用してください。
- ・下塗(HIP屋根用 下塗 UR-100、HIP屋根用 錆部用 下塗 UR-110)は、2液型の塗料です。所定の混合比により混合し、均一になるまで十分に攪拌してください。
調合した塗料は、可使時間以内に使い切ってください。
- ・他塗料の混入は絶対に避けてください。
- ・希釈をする場合は、必ず専用の希釈剤を使用してください。
希釈が必要な場合は、施工仕様書に基づき行い、塗料が均一になるまで十分に攪拌してください。

塗料の取り扱いに関する注意事項

【保管】

- ・開缶後の塗料は、速やかに使い切ってください。
ただし、やむを得ず塗料を保管する場合は容器は密閉し、冷暗所で保管してください。また、子供の手の届かない一定の場所を定めて保管してください。
- ・雨水や直射日光の当たる場所、高温多湿の場所、潮風の当たる場所、凍結の恐れのある場所(5°C以下)では保管しないでください。
- ・特に上塗は水系塗料ですので、凍結には十分注意してください。
- ・下塗は引火性液体ですので、火気のある場所での保管は絶対にやめてください。

【廃棄】

- ・残った塗料や容器などの廃棄は、許可を受けた産業廃棄物処理業者に委託してください。
- ・容器、塗装用具などの洗浄に使用した廃液は地面や排水溝へそのまま流さないでください。
- ・廃棄物などを焼却処理する場合には、大気汚染防止法、廃掃法、ダイオキシン特別措置法及び都道府県条例に基づいて処理してください。
- ・廃水処理、焼却などにより発生した廃棄物についても、廃棄物の処理及び清掃に関する法律及び関係する法規に従って処理を行うか委託をしてください。
- ・廃棄物は、都道府県条例に基づいて処理してください。

希釈をし過ぎると、隠ぺい力不足、タレ、スケなどの外観不良の原因となりますので規定量を厳守してください。
・開缶後の塗料は皮張り防止の為、使用中は開放を避け速やかに使用してください。

【塗装】

- ・塗装前に、洗浄時の水、結露、降雨により塗装面が濡れていない事を確認してください。
濡れている場合は、剥離の原因となりますので十分に乾燥させてから塗装を行ってください。
- ・塗装時には十分な養生を行い、周囲への塗装ミスの飛散防止を行ってください。
- ・塗装後、スケ、塗り残しがある場合は、補修を行ってください。
- ・塗布量が少ないと十分な性能が得られませんので規定の塗布量を厳守してください。
- ・施工仕様書に基づき、塗装間隔、乾燥時間は厳守してください。
- ・上塗は、水系塗料ですのでナイロン刷毛など水系塗料用の用具を使用してください。
獣毛刷毛などの溶剤系塗料用の用具で塗装されますと毛が固まる場合があります。
・塗装用具は塗装後直ちに洗浄してください。

【乾燥】

- ・乾燥過程で水(結露、雨など)の影響を受けると密着不良を起こす恐れがあります。
- ・塗装後5時間(20°C)は、絶対に雨にあわないように、また山間部で夜露が早く降りる地域や、昼夜の温度差が激しい時期は塗装を早めに終えて乾燥時間を確保してください。
- ・低温又は高温時には乾燥が遅くなります。

【その他】

- ・新設仕様(既存塗膜がない場合)については別途施工仕様書をご用意しておりますのでお問い合わせください。
- ・本カタログに記載されていない仕様で塗装される場合は、塗膜欠陥を起こすことがありますので使用前に当社までお問い合わせください。
- ・その他、ご不明な点等ございましたら当社までお問い合わせください。

【その他塗料の取り扱い】

- ・下塗は、引火性の有機溶剤を含んでいますので火気のある場所では使用しないでください。
また、揮発した有機溶剤を吸入すると有機溶剤中毒を起こす恐れがありますので、蒸気・スプレームスを吸い込まないよう必ず保護具をしてください。
- ・取り扱い中は塗料が皮膚に触れないようにし、必要に応じて保護具を着用してください。
(防塵防汚マスク、ヘルメット、保護眼鏡、長袖の作業着、襟巻タオル、保護手袋、前掛けなど。)
- ・容器から塗料を出し入れするときは、こぼれないようにしてください。
- ・もし、こぼれた場合には、布やウエスで拭き取るか、砂などを散布した後処理してください。
- ・皮膚に付着した場合には、直ちに多量の石鹸水で洗い、痛みまたは外観に変化があるときは医師の診察を受けてください。
- ・目に入った場合には、直ちに多量の流水で洗い、できるだけ早く医師の診察を受けてください。
- ・誤って飲み込んだときは、直ちに医師の診察を受けてください。
- ・取り扱い後は、手洗い、うがい、鼻孔洗浄を十分に行ってください。
- ・火災時には炭酸ガス消火器、泡消火器、粉末消火器を用い初期消火をしてください。
- ・その他、取り扱いについての詳細は、製品安全データシート(SDS)をご参照ください。